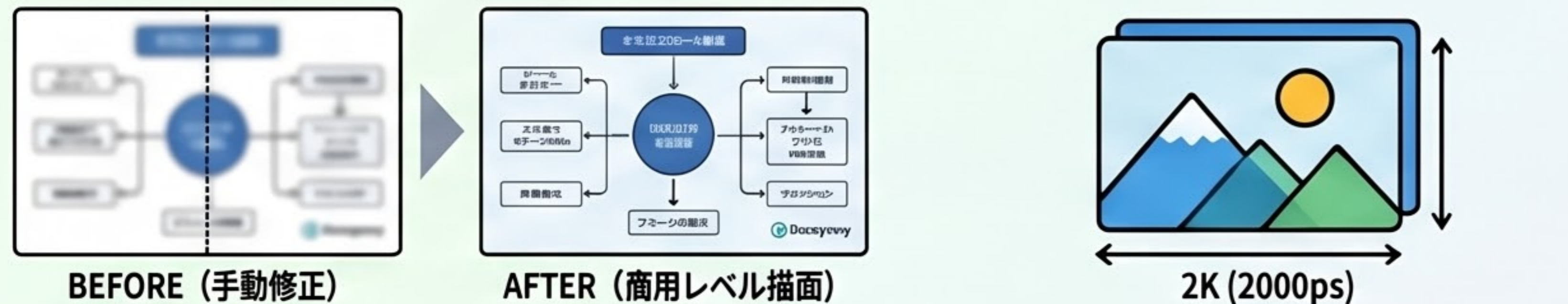


ChatGPT Images 2.0：知財実務者への包括的ガイド

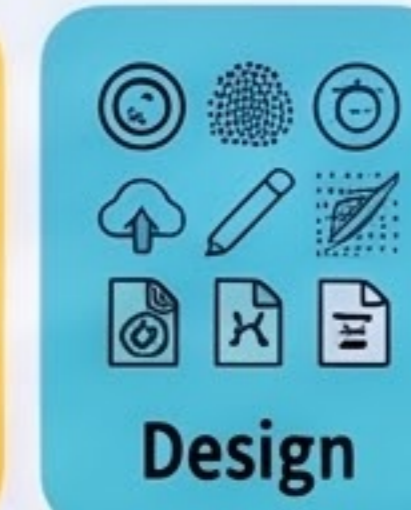
テクニカル仕様と性能の進化



日本語・CJK文字の商用レベル描画：ラベル付き図解、メニュー、ロゴが手動修正なしで出荷可能な精度に到達

日本の知財法における4つの論点

著作権：創作的寄与の立証
単なる生成は不可。プロンプト修正履歴や選択適極のログ保存が、著作物性立証の鍵となる。



意匠法：デザインフラッドへの懸念
大量生成による「先行業匠の洪水」が新規性を損害するリスクがあり、2026年の法改正動向に注視が必要。

商標法：偶発的類似のリスク
AI生成ロゴも登録可能だが、依拠性がなくても侵害は成立するため、J-PlatPat等での事前検索が必須。



特許法：発明者性の否定
日本・米・欧ともに発明者は自然人に限定。AI生成図面はペクター化や人間による補正が必須。

実務ユースケースと効率化の効果



業務時間の劇的削減：
MIXIの事例では月間17,600時間削減。
意匠参考デザイン作成は3日から30分へ短縮。

ROI (投資対効果) の試算：
月額\$20のPlusプラン利用でも、月間70枚程度の生成で投資に対して10~15倍のリスク回避・効率化効果。

リスク管理とガバナンス

競合AIツールとの知財実務における使い分け

ツール名	強み	知財リスク・補償	推奨用途
ChatGPT Images 2.0	✓ CJK文字、思考欄、Codex統合	✓ IP補償なし、学習データ非開示	✓ 内部資料、回解、ドラフト
Adobe Firefly	✓ 業界唯一の完全IP補償	✓ Adobe Stock学習、高い安全性	✓ 対外広告、ブランドロゴ
Midjourney V8	✓ 高いアート性、デザイン力	✓ 徴納競争中、IP補償なし	✓ 意匠コンセプトのラフ
Qwen-Image-2512	✓ OSS、セルフホスト可能	✓ 中国規制の確認要	✓ 自社機密データの社内運用



入力禁止情報の6類型

- クライアント秘密情報
- 未公開発明
- 未公開意匠
- 係属案件の事実関係 etc.



プラン別のデータ利用ポリシー：
API/Business/Enterpriseは学習不適用がデフォルトだが、Consumer版 (Free/Plus) は学習利用のオプトアウトが必要。



C2PAメタデータと透明性：
全面像にAI生成のメタデータが自動付与されるが、SNS等での判断を法定した多層検証 (逆画像検索等) が必要。